

ムラテック販売

PR

IP-FAXをインターネット上で実現 DDNS対応の複合機を製品化

従来「ダイレクトSMTP方式」のIP-FAXは、専用線やVPN等の閉域網の中でしか使えなかった。この常識を覆す技術を追求してきたのがムラテックだ。通常のインターネット環境において、ダイレクトSMTPの利点を活かしたFAX通信を実現。その成果を自社開発の複合機に実装し、高速かつ高画質のIP-FAXを可能とした。

従来のG3FAXをVoIP回線上で使うと、パケットの揺らぎや損失・遅延の影響を受け、しばしばエラーが発生する。このため、市販のVoIPゲートウェイを使い、インターネットでG3FAX同士を接続しても、多くの場合は満足に通信できない。また、FAXには固有の通信規約や細かな技術条件がある。このためユーザー企業は、IP電話システムを構築したり、IP電話サービスを導入したとしても、FAXのIP化にはためらいが生じる。

だが、企業ネットワークのIP化や、インターネットのブロードバンド化は着々と進展している。FAXをIP化し、通信コストの削減や業務改善につなぐことを望む声は日増しに大きくなっている。

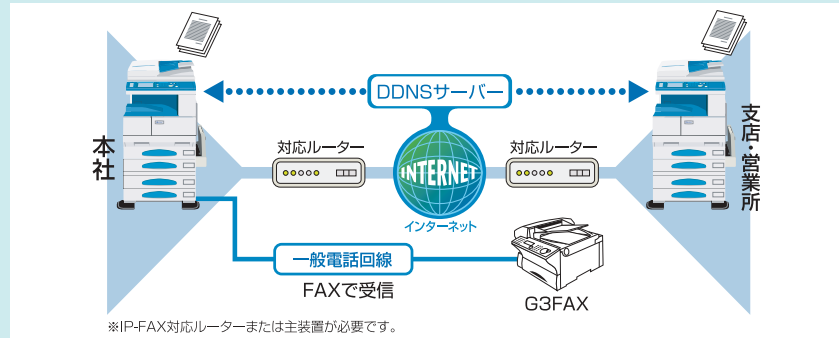
ムラテックは独自技術によってこの課題を解決し、複合機の「Vシリーズ」に実装。これまで、専用線やVPNといった1対1のリアルタイム通信ができる環境でしか使えなかった「ダイレクトSMTP方式」のIP-FAXを、通常のインターネット上で実現した。

IP-FAXの独自技術に自信あり

ムラテックが開発したのは、「DDNS対応IP-FAX」である。接続のたびに变化するIPアドレスとドメイン名を自動的に結びつける「DDNSサービス」を利用し、通信毎に相手のIPアドレスを特定。これにより、インターネット上でのダイレクトSMTP送信を実現させた。

この方式には多数の利点がある。まず、メールサーバーを介したT.37方式

図 DDNS対応IP-FAXの接続構成



の蓄積型インターネットFAXでは、リアルタイム性を損なうことが懸念されていたが、DDNS対応IP-FAXならその心配はない。また、コピー機並みの600dpiという鮮明画質を超高速で送信できる。さらに、双方向通信が可能なので送信中でも受信できるなど、従来のFAXと同じ操作でありながら、通信の効率を格段に向上することができる。

導入は、複合機本体を設置するだけでよい。運用場面においても、特に管理者を置く必要がない。

元来FAXメーカーであるムラテックは、IP-FAX技術に大きな自信を示す。加えて、複合機としての完成度も高く、コピー、スキャナー、プリンターといった諸機能も充実させている。

「単なるFAXとしてではなく、企業のコミュニケーションシステムを構成する端末になるために柔軟性を追求し、数々の機能を盛り込んだ」という。

誤送信防止等で企業システムと連携

社内ネットワークを利用したIP-FAXの事例では、SIベンダーとの協業により、専用サーバーでFAX端末を集中

管理することで、誤送信の防止や、受信FAXの集中を自動的に分散させる仕組みも実現。「特に最近では企業やグループ間のネットワーク全体を見直しながら、通信システムの再構築を進めるケースが増えている」という。

さらに可用性やセキュリティ面に配慮した機種もラインナップしている。例えば、サーバー障害等によるエラー時には、同じ宛先のG3FAXへ自動的に切り替える「リルート機能」がある。また、送受信の画像データを自動保存する「アーカイブ機能」を備えた機種もある。

今後同社では、DDNSサービスの活用に加え、IPv6や各種VPNサービス、ソフトウェア等との連携を指向。ユーザー企業のネットワーク環境に適した通信ソリューションの開発を目標に掲げ、将来のオフィスコミュニケーション市場をにらんだ商品展開を行う予定だ。

お問い合わせ先

muratec

ムラテック販売株式会社

販売本部

TEL 0120-610-986

URL <http://www.faprico.com/>